

アンケートの概要

井戸 慶治（徳島大学 総合科学部）

ここでは、全学共通教育センターが実施した学生による授業評価アンケートの概要を示し、現時点での外国語アンケートの最新の結果である2010年前期の結果について概観します。最近行われた2011年度後期のアンケート結果は、この冊子ができている頃にはお手元に届いているでしょう。

アンケートの概要

このアンケートの目的は、授業の質を改善することであり、またその特色は以下の二点です。第一に、実際の授業へのフィードバックをより容易にするため、中間アンケートをおこなっています。期末アンケートに中間アンケートを加えたので、センターでは、学生・教員の負担軽減のため、アンケートを全授業で毎学期には実施せず、科目群ごとに一年半に一回の実施としています。第二の特色は教員による自由作成項目です。これは、共通項目8個（2011年度からは10個）の他に5個以内の項目を、授業担当教員自身が、自己の教育理念や授業計画にもとづいて自由に作成し、学生に問うというものです。さらに、学生による自由記述の部分の第三項目として、やはり教員自身が作成した設問を追加することもできます。これらの項目は、不必要と考えれば作らなくてもかまいません。自由作成項目導入の目的は、第一に全学共通教育の特色である授業の多様性を保証すること、第二に授業改善の直接的手段とすること、第三に授業評価における各教員の自主性を高め、アンケートへの学生の無関心を抑制すること、の三点です。

以下は2010年度後期までの期末アンケート（2011年に若干変更あり）の内容です。2以外の各項目について、受講生は5を最高値とする5段階評価をおこないます。

【自分自身に対する評価】

1. この授業に対するあなたの受講態度（集中度・出席率・発表の回数と内容など）はどうでしたか。[受講態度]
2. 予習復習・レポート作成・関連文献の読書・外国語やスポーツの実践練習など、この授業に関連して費やした時間の平均は、1週間あたりどのくらいでしたか
[学習時間]
[5：2時間以上，4：1時間半程度，3：1時間程度，2：30分程度，1：ほとんどなかった]
3. 受講にさいしてこの授業の目的・目標を理解していましたか。[目的意識]

【教員に対する評価】

4. シラバスに記載されている目的・目標・概要・計画は、実際の授業でどの程度実現されましたか。[シラバスと授業の整合性]
5. 教員の話し方や説明の仕方は適切でしたか。[説明・発声の適切さ]
6. 授業への積極的関与や自主的学習・実践などを促す教員の創意工夫がありましたか。[創意工夫]
7. 総合的に判断して、あなたはこの授業に満足しましたか。[総合評価]
8. (中間アンケートを実施した授業についてのみ回答してください。) 中間アンケート以降、授業方法は改善されましたか。あるいは、中間アンケートの時点ですぐれた授業だった場合、その水準が維持されましたか。[中間アンケートからの改善]

【教員による自由作成項目】

以下、担当教員が別紙や板書などで示す設問(5個以内)があれば、5段階評価で回答してください。

9. () 【10.—13. も同様】

【自由記述】

この授業に対する意見をマークカードの裏に自由に記述してください。

1. 良かった点(他の授業でも取り入れてほしい教員の創意工夫など)
2. 改善してほしい点
3. 担当教員が別紙や板書などによって、特に自由記述による意見を求めた点があれば、それに対する回答を書いてください。

なお、項目作成の参考のため、以下のような例をアンケート用紙に添付し、ここからそのまま使用することも可としました(これも11年度に若干変更)。

- a. 新しい知識や技能が獲得できましたか。
- b. 対象に対して多面的な見方ができるようになりましたか。
- c. 知的な意味で視野が広がりましたか。
- d. 授業の内容に知的な面白さがありましたか。
- e. 授業テーマや関連分野に対する興味が掻き立てられましたか。
- f. 授業に対する準備は十分になされていましたか。
- g. 使用教科書や配布資料、提示された参考文献は適切でしたか。
- h. 個々の質問や発言に対する教員の対応は適切でしたか。
- i. 授業内容が単なる知識の羅列でなく、系統的に考えられる枠組みが与えられてい

ましたか。

- j. 授業を進めるにあたって、受講生の理解度に対する教員の配慮が感じられましたか。
- k. 授業で得られた知識や考え方は、役に立ちそうですか。
- l. ホワイトボード・視聴覚機器（・実験やスポーツの器具）などの教具が、授業内容にふさわしい仕方でも効果的に使われましたか。
- m. 成績評価の基準が明確に提示されましたか。
- n. 授業内容は、他の受講すべき授業やカリキュラム全体との関連の中で、適切でしたか。
- o. 自分のめざす専門分野の、全体の中での位置づけがわかるような授業でしたか。
- p. 当初授業に期待していたものが、教員の授業の仕方や自分の努力によって十分に達成されましたか。

2010 年度前期のアンケート結果

次に、2010 年前期におこなわれた外国語科目のアンケート結果を示します。まず、各科目ごとのグラフを提示しましたが、言うまでもなく受講者数など条件は異なるので、単純に比較はできないということを付言しておきます。一般に少人数の授業ほど評価値は高くなります。

表 1 および図 1 を見てみると、各科目とも、ほとんどの項目では良好な評価が得られていますが、第二項目の授業以外での学習時間は、一週間の平均が 30 分から 60 分の間という結果になっています。一日だとわずか数分です。これは語学、特に初修外国語にとってはけっしてよい結果とは言えませんので、改善が必要でしょう。

自由作成項目の利用率は 26.5 パーセントでした。（このときは、外国人の先生による利用が少なかったため、最近のアンケートでは英文の説明書を添付しました。）このうち多くの授業で、例示項目の利用でなく担当教員による独自の項目が作成されました。以下にその主要なものを分類して提示します。（設問の内容によって科目がわかるもの以外は、英、独、仏、中、という語によって科目を表示します。）

【授業全体に関するものなど】

- ・ 英語の授業数や種類がもっとあればよいか。
- ・ 授業で学習責任が自分にあったと感じた。(英)

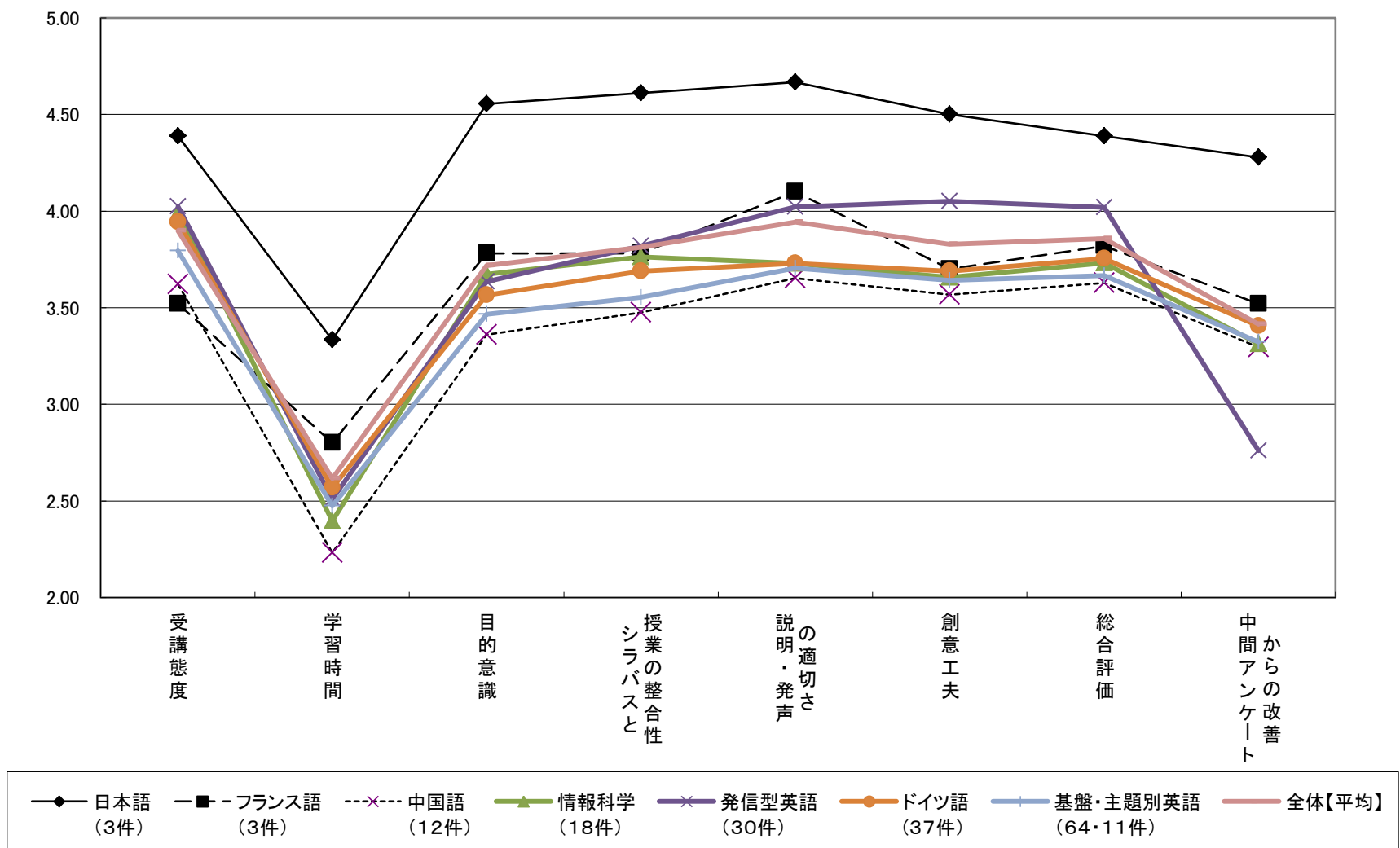
【授業の具体的方法に関するもの】

- ・ ビデオ「英語で Let' s Go!」を見たことについて。
- ・ 課題の英文エッセーを書いたことについて。
- ・ 教科書は適切か。(仏、中)

表 1：学生による授業評価アンケート結果（質問項目は別紙に掲載）

期末アンケート 回収率：93.4%	受講態度	学習時間	目的意識	シラバスと 授業の整合性	説明・発声 の適切さ	創意工夫	総合評価	中間アンケート からの改善
日本語 (3件)	4.39	3.33	4.56	4.61	4.67	4.50	4.39	4.28
フランス語 (3件)	3.52	2.80	3.78	3.78	4.10	3.70	3.82	3.52
中国語 (12件)	3.62	2.23	3.36	3.47	3.65	3.57	3.63	3.29
情報科学 (18件)	3.99	2.40	3.67	3.76	3.73	3.66	3.73	3.31
発信型英語 (30件)	4.02	2.51	3.63	3.82	4.02	4.05	4.02	2.76
ドイツ語 (37件)	3.94	2.57	3.56	3.69	3.73	3.69	3.75	3.41
基盤・主題別英語 (6411件)	3.79	2.47	3.47	3.55	3.70	3.64	3.67	3.32
全体【平均】	3.90	2.62	3.72	3.81	3.94	3.83	3.86	3.41

図1：学生による授業評価アンケート結果



- ・ クラス・ジャーナルを通してライティング・コミュニケーションの練習ができた。(英)
- ・ (授業で勉強した) 歌が面白かった。(中)

【授業の重点的内容に関するもの】

- ・ 文法についての説明はわかりやすかったか。(仏)

【授業の効果に関するもの】

- ・ TOEIC 準備のうえで効果があったか。
- ・ 今後は自分で TOEIC の勉強ができるか。
- ・ 英語や、英語を通して世界を知ることに対して関心が高まったか。
- ・ 英語学習に対して意欲がわいたか。
- ・ 時事英語に慣れた。
- ・ 英語学習へのイメージが全体的に好転したか。
- ・ 中国に行って現地の人と話してみたいか。
- ・ ドイツ語圏に対する関心が強くなったか。

のべの数では、授業方法（外国語の教授方法や教材）について問うものが最も多く、授業の効果（TOEIC 関係、自発的学習への動機づけ、外国に行って現地の人と話したいか、外国語を通じての外国事情、文化への関心）について問うものがそれに次いでいます。また、例示項目の利用については、使用回数の多かったものは次のようになっています。5 回:a、4 回:c,g、3 回:h,j。新しい知識・技能の獲得を問う a が当然外国語全般で最も多いわけですが、次に、(初修外国語に限りますが) 知的視野の広がりや教科書等の適切さを問うもの、質問への対応や理解度への配慮を問うものが多くなっています。全体としては非常に多様で教員や授業の個性が現れており、この結果は今後の項目作成の参考にもなると思われます。

共通教育賞受賞授業への学生のコメント

ところで、センターでは「共通教育賞」を設け、アンケートで高い評価を得た授業の担当教員を表彰し、その氏名と当該の授業に対する学生の自由記述を全学共通教育のホームページ (<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ceducom/sugureta.html>) で公表しています。以下に、2010 年度前期の外国語科目の受賞者と学生のコメントの一部を紹介します。

三隅友子（日本語）

- ・ 友達できてよかったです。授業は面白かったです。日本語が上手になったと思います。
- ・ 現代の日本の高校と会社の姿も見れるし、内容も面白いので、気に入りました。

た。

- ・ 「パパとむすめの7日間」のDVDは極めて楽しかったです。面白かったです。いろいろの言葉は勉強になりました。
- ・ 面白かった。若者言葉と正式な言葉、両方とも勉強できるのはよかった。

ギュンター・ディルク（基盤英語）

- ・ 他の授業と違って退屈せず、ずっと集中して受けられる。話が面白い。
- ・ 先生と会話ができる授業があって、とても楽しかった。プレゼンテーションは、準備など少し大変だったけど、ためになった。
- ・ いろいろなこと（単語・スピーキング・プレゼンテーション）ができたこと。

フクダ・トシヒサ

（基盤英語）

- ・ 英語を話せるようになりたい、理解できるようになりたいと強く思うようになりました。これはとても話しやすいネイティブのスティーブ先生のおかげです。高校までのめんどろな勉強とは全然違う楽しい英語でした。
- ・ 今までは、与えられたテキストをしていた。目的意識を持って取り組むこと、自分の将来に英語の必要性を理解できた。

（発信型英語）

- ・ プレゼン中心の授業をすることによって、英語への関心が高揚し、早く慣れるのでよいと思う。
- ・ 「正確な」英語よりも「相手に伝わる」英語の話し方を心がけるようになり、応用力は上昇したように感じた。
- ・ 英語を使うことへの緊張感が減る。英語を話すのがより楽になったと思う。

バロッグ・スザンネ（発信型英語）

- ・ 映画で英語を学べて楽しかったです。Thank you very much.

田島俊郎（フランス語入門）

- ・ 当てられるのでみんなが授業に参加できる。

石田メグ（基盤英語）

- ・ 楽しく英語を学ぶことができた。

これらのコメントは、自発的学習の動機づけとなる授業の楽しさや内容的な面白さを評価したものと、授業の双方向性、例えば英語でのプレゼンテーションという方法、を評価した

ものの二つに大別することができるでしょう。

結びにかえて

アンケートはたしかに授業改善の有効な手段のひとつではありますが、他の手段と同様、万能ではありません。例えば、これは外国語科目においては教養科目や専門科目ほど重要ではないかもしれませんが、教授内容が正確であるか、新しい研究成果にもとづいているか、という点を学生は本当に正しく評価できるのかという点、そこには限界があるでしょう。また、学部学科によって関心のありかが異なり、評価の傾向に差異があるということ、教える方法や内容が同一であっても、その反応がずいぶん違うことは、しばしば経験するところです。学生の個人差もあり、自由記述の学生の答を見ると、ひとつの事柄（例えば授業中にビデオを見ること）について賛否両論の答がある場合もあります。

共通教育賞を受賞した先生方や、それぞれの共通項目について高い評価を得た先生方の授業は非常にすぐれたもので、この拙稿に続くその先生方の文章は、われわれの授業改善にとって貴重な情報源ですので、大いに参考にさせていただければと思います。ただ、よき教育への道はひとつではなくさまざまだと思います。学生の一般的な好評価が得られなかった場合であっても、その授業が必ずしも劣っているわけではなく、すべての授業に長所はあるはずで、他の授業のすぐれた点を見習うのみならず、もともと授業にあった長所・よき個性を伸ばすような方向での授業改善も考えていただければと思います。学生の個性をのばすことを是とするなら、授業の個性も尊重すべきではないか、それにより全体として教育の多様性を確保すべきではないか、これが、自由作成項目を導入したひとつの趣旨でもありました。